

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第432号	氏名	工藤 正喜
審査委員		主査氏名	平井俊範
		副査氏名	山口 昶
		副査氏名	若川善隆
[論文題名] Influence of leg-length discrepancy on anterior acetabular coverage using false profile image (J Orthop Sci, DOI:10.1007/s00776-015-0738-0, 2015)			
[要旨] 変形性股関節症患者は、症状の進行に伴い脚長差を生じることが多い。荷重時の脚長差が、寛骨臼の側方被覆度に影響を与えるとの報告はあるが、前方被覆度（VCA 角）への影響や特に脚長差の補高前後の関係を検証した報告はない。false profile (FP) 画像を用いた VCA 角は変形性股関節症の診断や治療及び手術に際し重要な指標となる。しかし、脚長差を有すると真の VCA 角を把握することができない。正確な診断や治療及び手術を行うためには、荷重位で脚長差を補正した VCA 角の計測が必要である。本研究では、変形性股関節症における荷重位の脚長差の違いが VCA 角に及ぼす影響を定量的に検討した。 その結果、罹患者において補高前後の前方被覆を比較すると、短脚側では補高後で小さくなり、長脚側では補高後で大きくなった。また、健常者においては、意図的に脚長差をつけていくにしたがって短脚側の前方被覆が増大した。罹患者の短脚側及び長脚側の VCA 角と健常者の短脚側の VCA 角は、脚長差の補高前後で有意差を認めた。さらに、罹患者における補高前後の VCA 角度差は、短脚側及び長脚側とも脚長差の程度と高い相関関係にあった。 これらの結果により、荷重位の脚長差が VCA 角に影響を及ぼすことが明らかになった。脚長差補高前後の前方被覆を評価できることは、手術の適応ならびに術中の治療方針の決定に有用であると考えられ、学位論文に値するものと判定した。			